

王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業

基本協定の締結

KOBE 
CITY of DESIGN

×



関西学院
KWANSEI GAKUIN

これまでの経緯

2022年

12月12日

王子公園再整備基本方針 策定

12月21日

大学公募 開始

2023年

6月19日

優先交渉権者 決定

本日

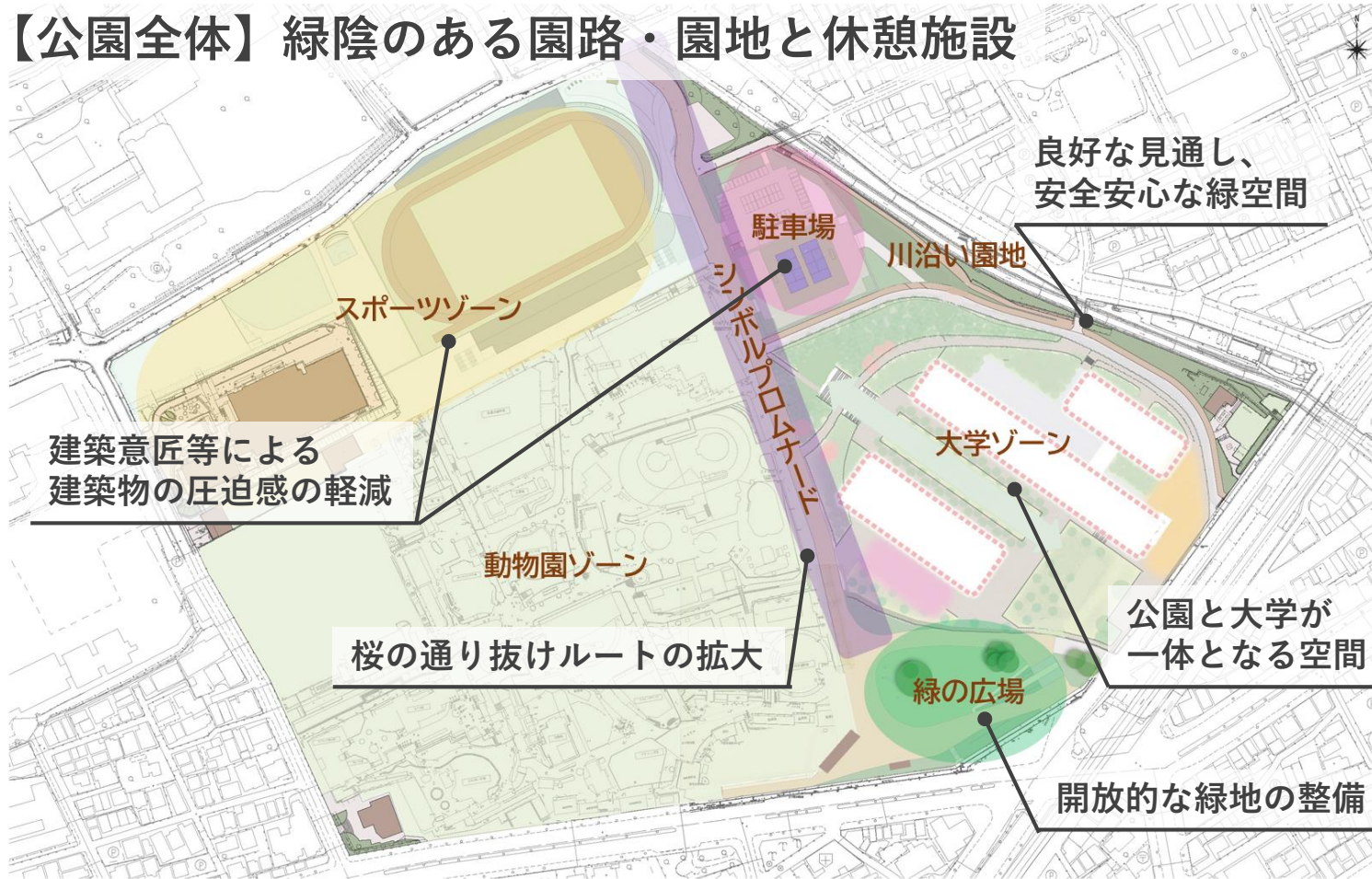
基本協定 締結

王子公園再整備の5つの基本目標

1. 新たな「原田の森」の創造
2. 学術・文化拠点のシンボルの創出
3. 王子動物園の魅力向上
4. 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上
5. 広域防災拠点の機能強化

基本目標 1 ～新たな「原田の森」の創造～

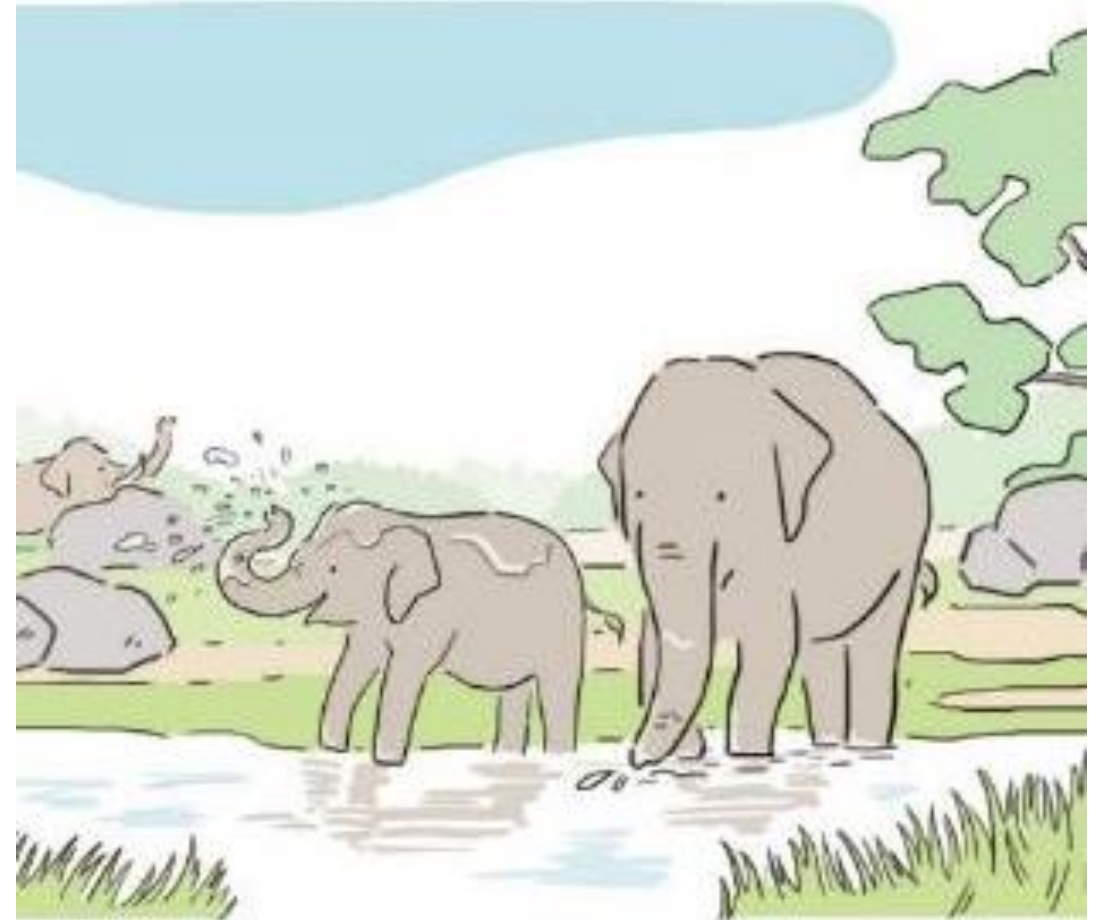
【公園全体】 緑陰のある園路・園地と休憩施設



王子公園全体の魅力を向上させながら良好な景観の維持、向上

基本目標 3 ～王子動物園の魅力向上～

分かりやすいゾーニング



六甲の豊かな緑を感じ、動物と人がいきいきと過ごしながら世界につながる動物園

基本目標 4 ～公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上～

緑の広場・シンボルプロムナード



スポーツゾーン

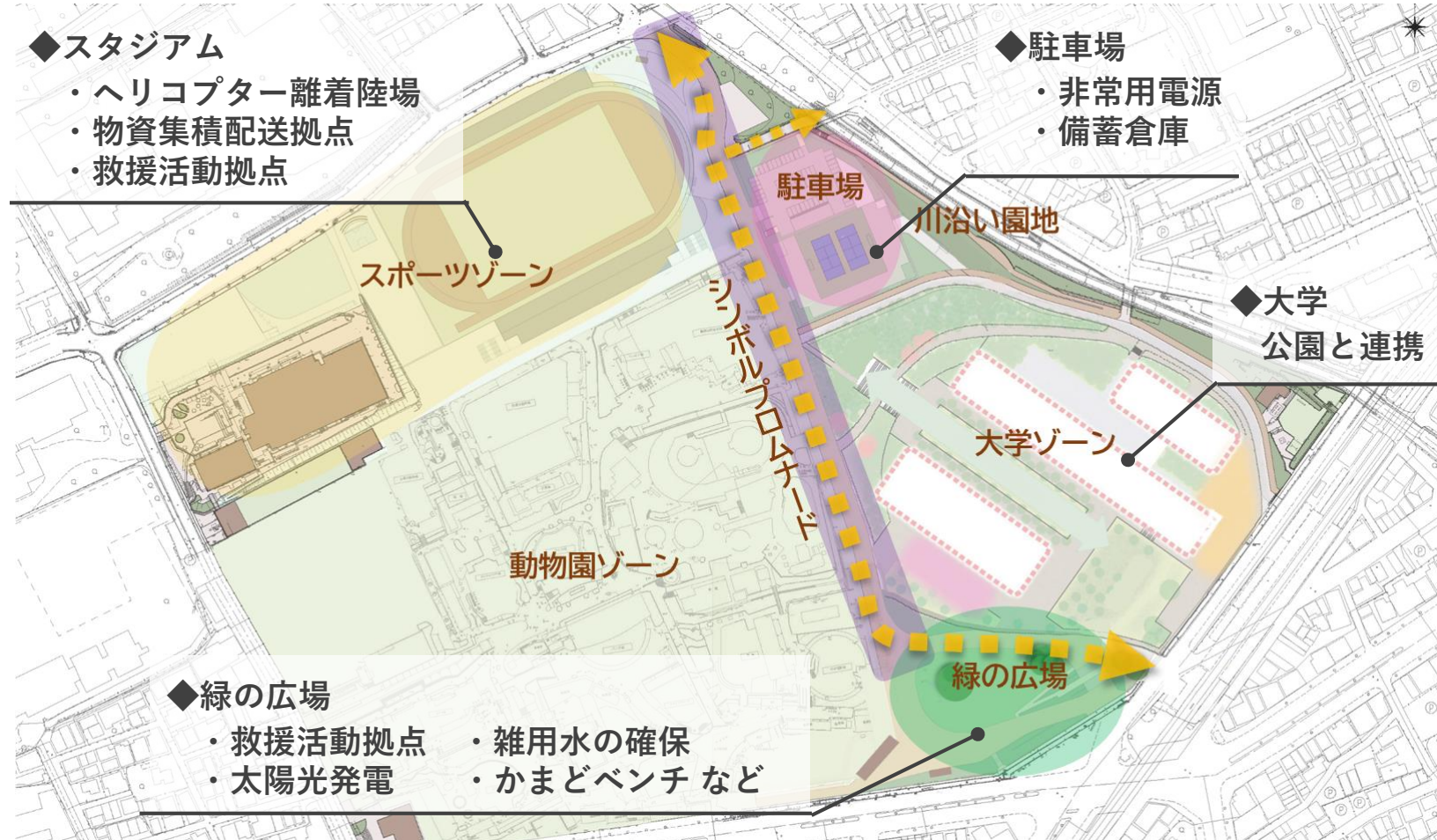


誰もが気軽に憩い、くつろげ、利用できる空間

基本目標 5 ～広域防災拠点の機能強化～

◆ 公園全体

- ・ 緊急避難場所
- ・ 防火樹林帯
- ・ 既存機能の確保



公園全体で広域防災拠点としての機能を強化

基本目標 2 ～学術・文化拠点のシンボル創出～

周辺エリアのポテンシャル

- ・ 海と山に挟まれた魅力ある景観
- ・ 都心三宮に近く、駅に隣接する高い利便性
- ・ 古くから培われた教育・文化の気風

市が抱える課題

- ・ 持続可能な社会の実現(SDGs)
- ・ 若年定住人口の減少、高齢化の進展
- ・ 王子公園施設の老朽化、周辺地域の活性化

大学に期待する役割

- ・ 大学の使命「教育」「研究」「社会貢献」
- ・ SDGsの達成に資する教育研究活動
- ・ 優秀な人材の確保・育成・輩出、社会貢献



王子公園周辺エリアの歴史と文化を尊重し

地域そして世界に開かれた大学

優先交渉権者決定



学校法人 関西学院

今後の予定

本日

2023年12月22日

基本協定締結

優先交渉権者 ▶ 契約予定事業者

2024年中（予定）

土地譲渡契約締結

2029年～2031年頃

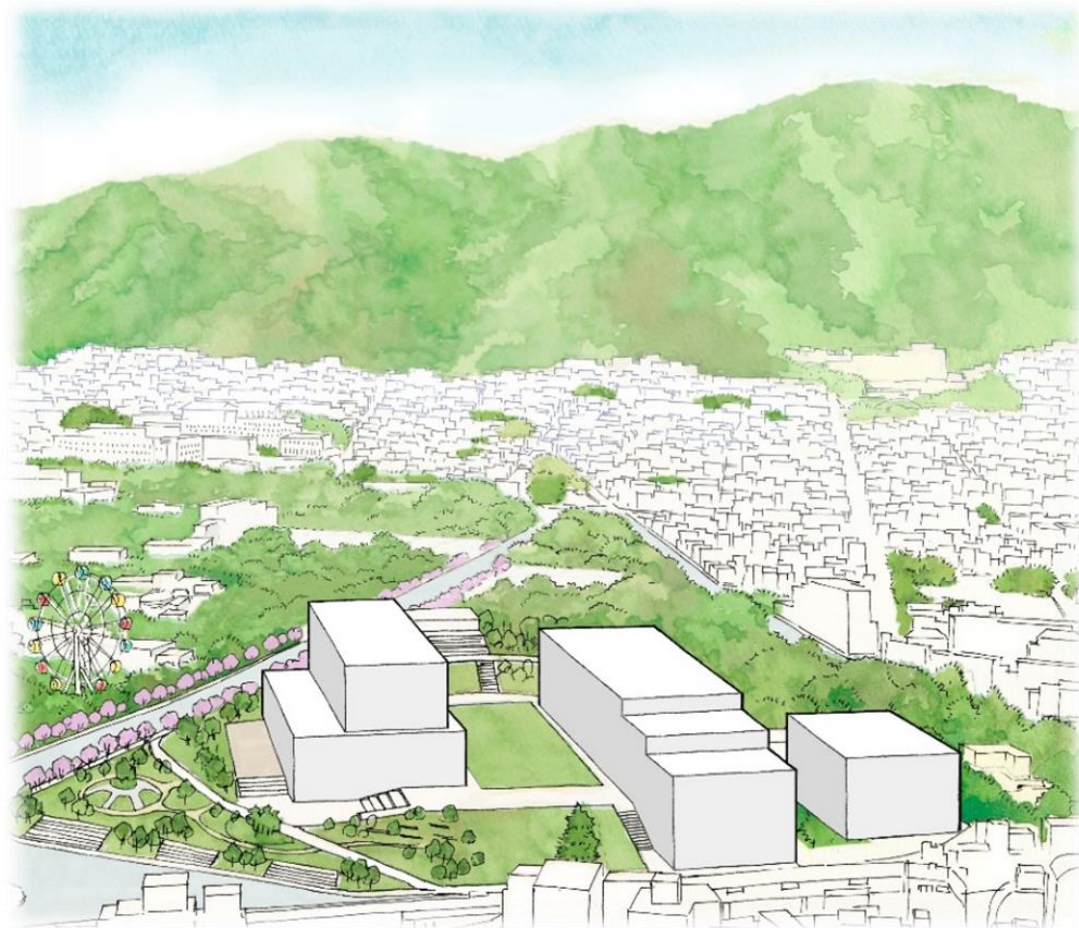
開校



関西学院大学 王子キャンパス(仮称)

事業実施計画概要

国際化、産官学民連携、デジタル
を徹底的に強化した
4,000人規模の新しい学びの場
(学部レベル) を新設予定



※本資料の内容・イメージは今後の協議により変更の可能性あり

現在、14学部・14研究科体制で教育研究を展開

キャンパス	学部・学科・課程 (2023年4月現在)
西宮上ヶ原 (西宮市)	神学部、文学部(文化歴史学科/総合心理科学科/文学言語学科)、社会学部社会学科、法学部(法律学科/政治学科)、経済学部、商学部、人間福祉学部(社会福祉学科/社会起業学科/人間科学科)、国際学部国際学科
神戸三田 (三田市)	総合政策学部(総合政策学科/メディア情報学科/都市政策学科/国際政策学科)、理学部(数理科学科/物理・宇宙学科/化学科)、工学部(物質工学課程/電気電子応用工学課程/情報工学課程/知能・機械工学課程)、生命環境学部(生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科)、建築学部建築学科
西宮聖和 (西宮市)	教育学部教育学科

主要3キャンパス（西宮上ヶ原、神戸三田、西宮聖和）を中心に約25,000人の学生が学ぶ

教育・研究の特色

- 伝統と実績の、全国トップレベルの国際教育
- 大規模大学の実就職率ランキング第1位
- 総合大学ならではの幅広く豊かな研究実績

本学と王子公園のかかわり

- 本学は1889年に創立者のW.R.ランバスによって当時「原田の森※」と呼ばれていた現在の王子公園の一角に設立された。

※当時の原田村原田神社の松林を「原田の森」と呼び、関西学院のキャンパスはこれを取り囲むように配置されていた。

- 以降、1929年の西宮上ヶ原キャンパス移転までの40年間、本学は神戸の地で草創期の発展を遂げた。



原田の森時代の正門



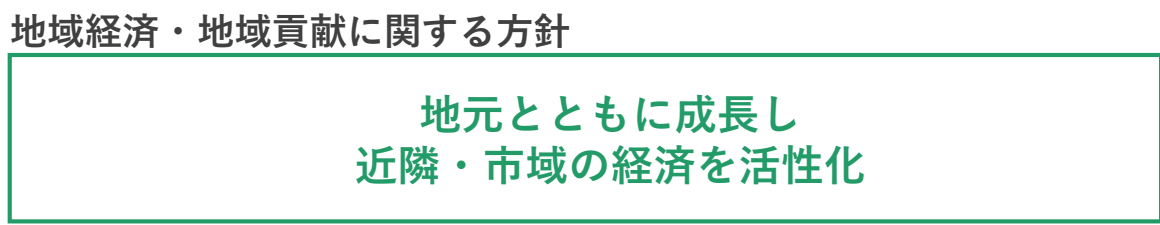
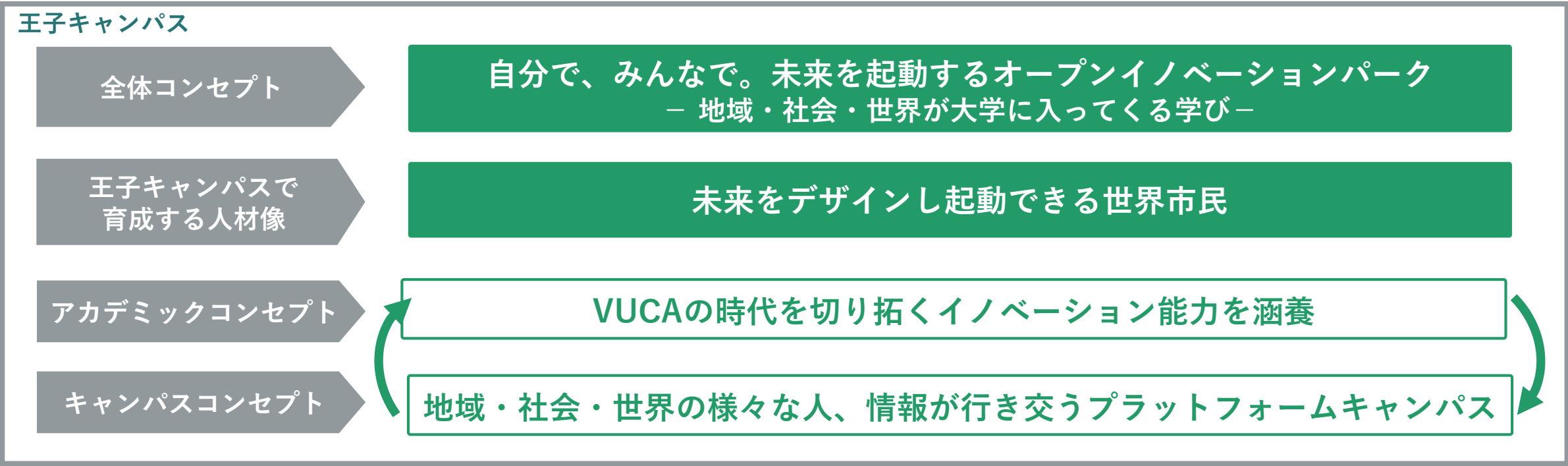
キャンパスで行われた運動会の様子

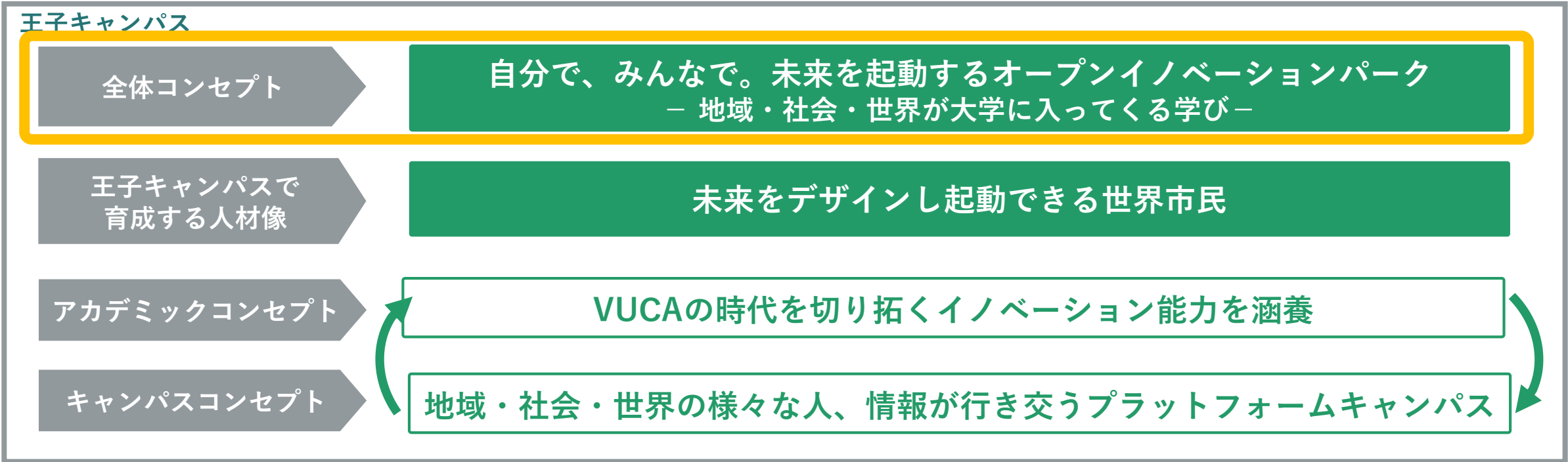
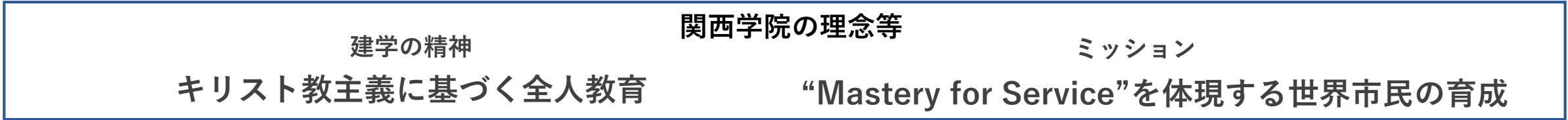


原田の森時代のキャンパス

構想案について

関西学院大学王子キャンパス構想の全体像





地域経済・地域貢献に関する方針



+



時代背景

- 変化が加速し、予測困難な現代（VUCAの時代）
- 世界の高等教育のパラダイムシフト



王子キャンパス

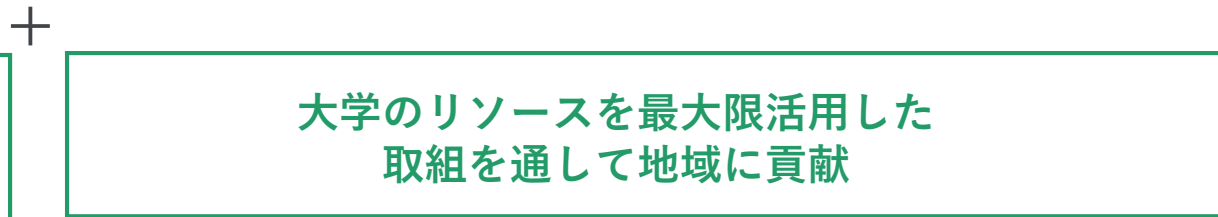
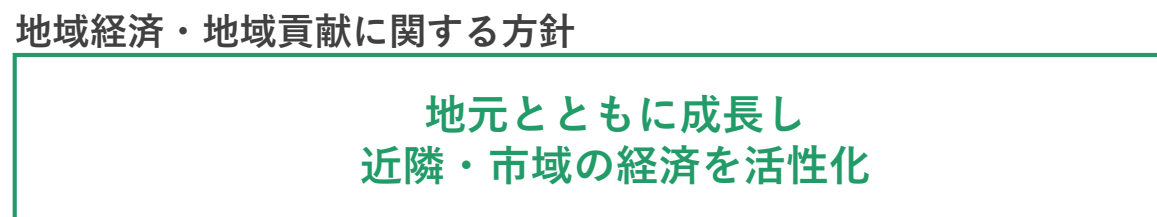
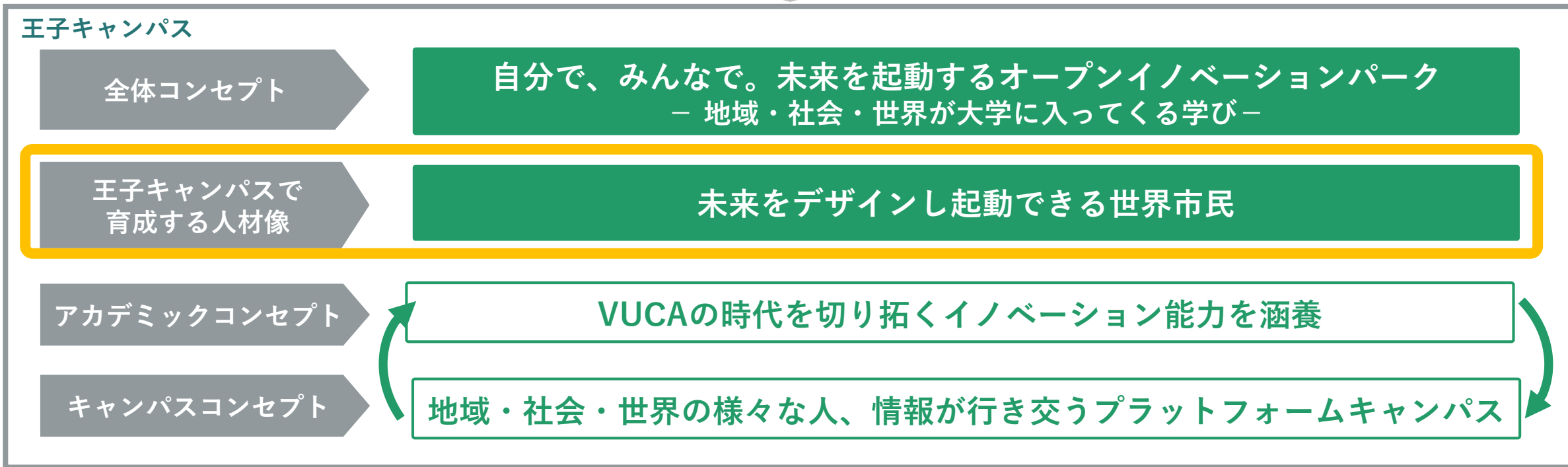
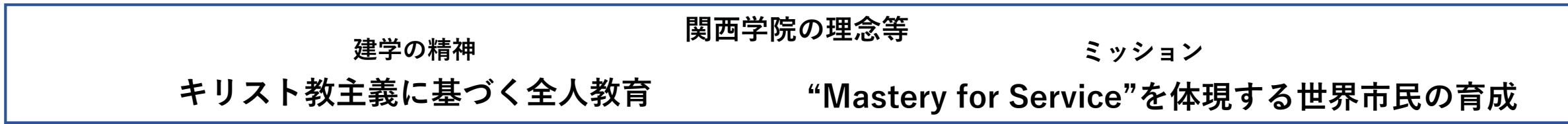
新しい大学教育の創造の場

- 本学教職員、学生が世界からの研究者・留学生や企業、自治体、地域住民とともに、
プロジェクト型学習で課題解決に取り組む
- 地域・社会・世界にイノベーションを起こす人材を育成・輩出



「自分で、みんなで。未来を起動するオープンイノベーションパーク」の創出

コンセプト 育成する人材像



「未来をデザインし、起動できる世界市民」を育成

「未来をデザインする」こと

原因や解が1つではない現代の複雑な課題に対して、他者と対話し共感しながら、進むべき方向性や解を見出し、提案すること。

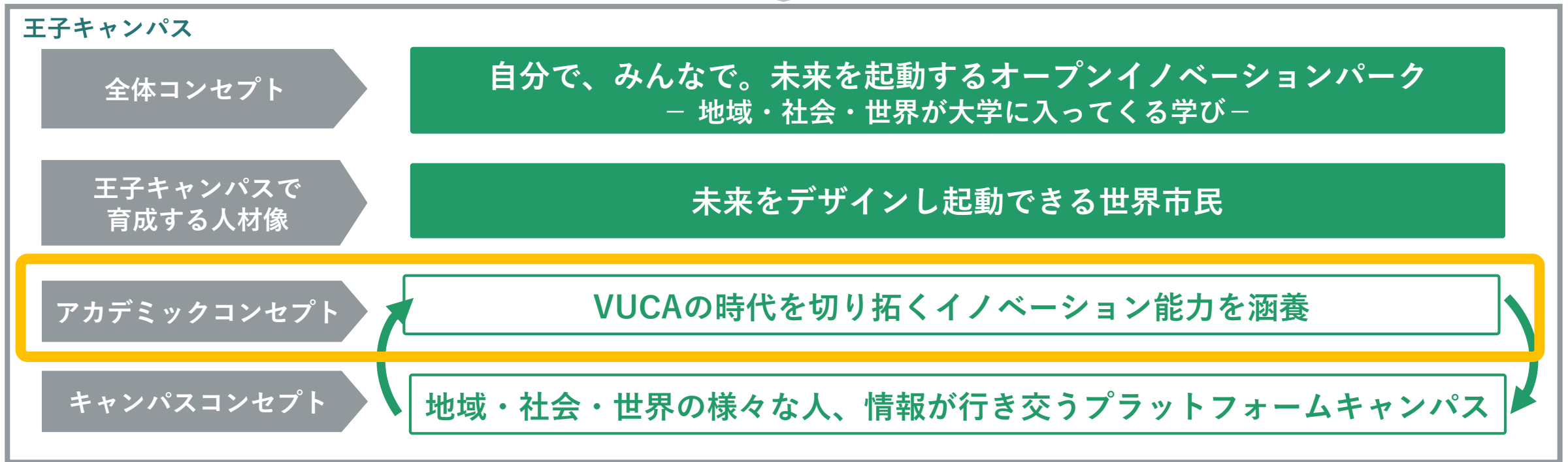
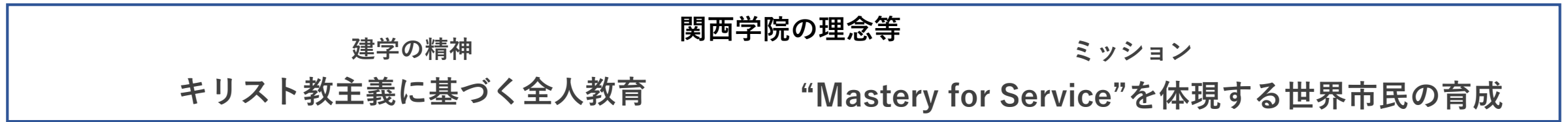


「未来を起動する」こと

社会と世界のために、新たな価値を自ら生み出すアントレプレナーシップを発揮すること。

- 世界や社会との連携、交流を通じて、国際性や多様性への理解を身につけ、アントレプレナーシップを発揮してよりよい社会の実現に貢献できるイノベーション人材を育成

コンセプト アカデミックコンセプト



地域経済・地域貢献に関する方針



+



VUCAの時代を切り拓くイノベーション能力を涵養

- 課題解決に焦点を据えた文理融合かつ学際的な学びを重視
- 国際都市神戸にふさわしい、国際性と多様性に満ちたキャンパスを目指す
- 最先端のデジタル技術で既存キャンパスと緊密なネットワークを構築

→総合大学としてのリソースも活用



プロジェクト推進を核に、神戸、日本、未来の新たな価値創出の拠点を整備

- 産官学民で連携した社会課題解決のためのプラットフォームを構築
- 教員と学生、および地域や世界の企業、行政、市民がプロジェクトチームを組んで協働



水道筋商店街（神戸市灘区）での本学
学生によるソーシャルビジネス展開



神戸市企業との産学連携プロジェクトの一コマ

「垣根なきラーニングコミュニティ」を標榜する本学らしい国際性豊かなキャンパス

- 学生定員 4,000人のうち2割程度は留学生とすることを旨とする
- 英語だけで学位が取得できるプログラムの充実
- 国際的なテーマを多く取り入れるプロジェクト型学習



多様性・国際性を重視したキャンパス
(イメージ)



- 国際都市神戸にふさわしい、世界から学生が集まるキャンパスを形成
- 海外の企業や大学・学生等との国際的な協働が日常的に行われるキャンパス

神戸市とのシナジー

市政140周年

神戸空港の国際空港
化(2030～予定)

JR三ノ宮駅前再開発



KWANSEI GAKUIN

メタバースやオンラインでの学びも積極的に取り入れ、国際化を推進

- メタバースやAI、オンラインなどを積極的に活用
- 物理的な距離の制約を超えた国際教育を展開

具体的な施策例

オンラインやAIを活用した英語教育
海外大学が提供するオンライン授業をカリキュラムの一部に導入
オンライン留学
メタバースキャンパスでの国際交流・協働学習

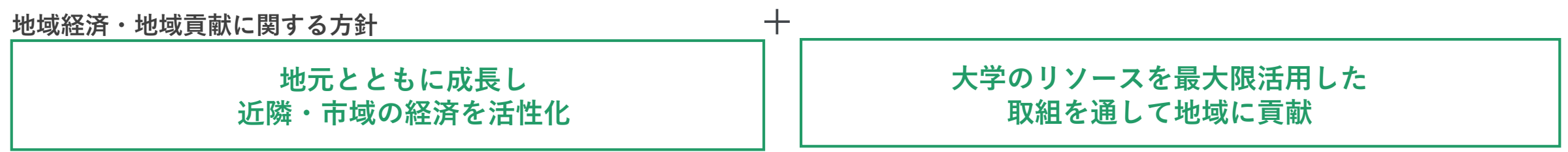
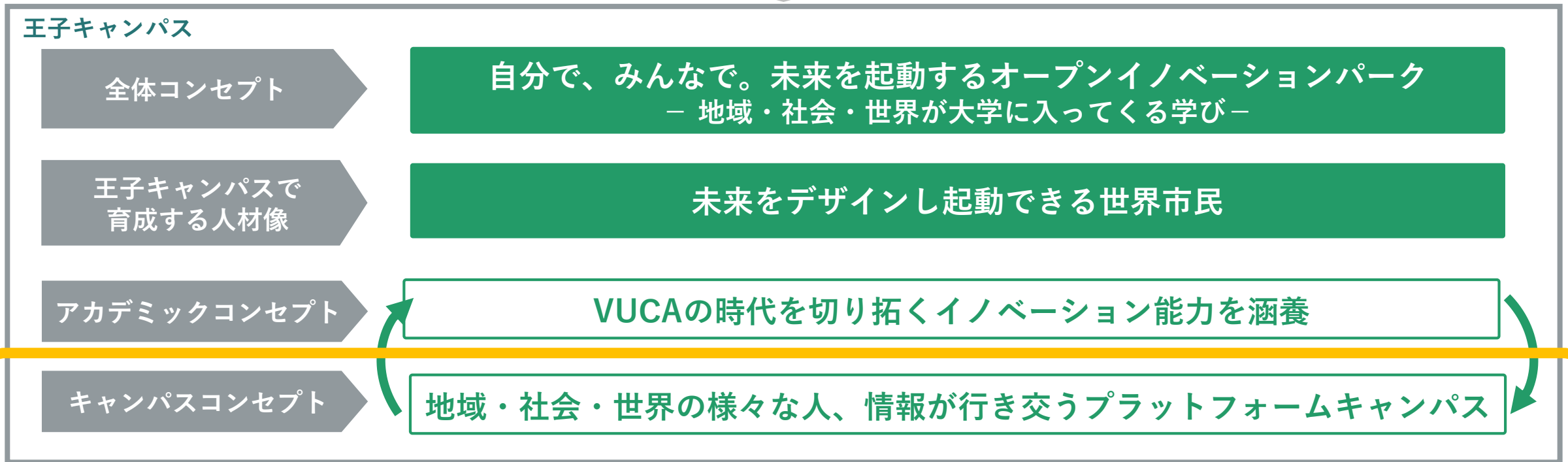
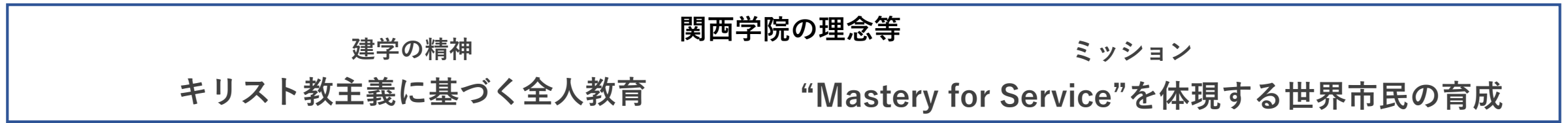


リアルキャンパスとデジタルの併用による
可能性の拡大



メタバースキャリアセンターの実証実験
(関西学院大学×株式会社キャリアポット)

コンセプト キャンパスコンセプト



コンセプト キャンパスコンセプト

地域・社会・世界の様々な人、情報が行き交うプラットフォームキャンパス

キャンパスの特色

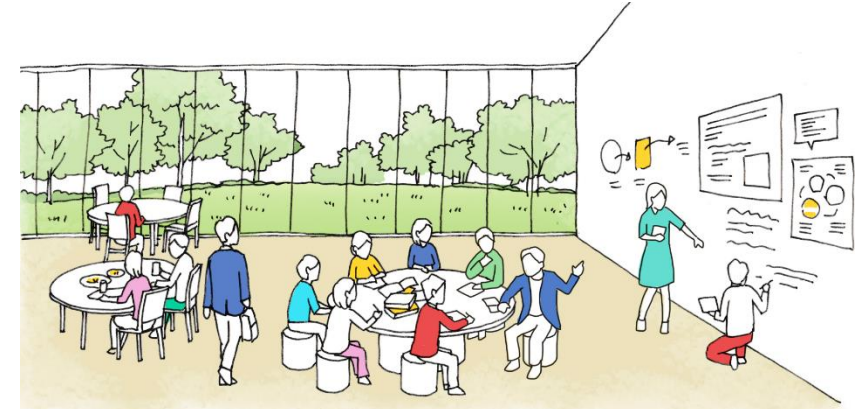
- 【空間】 緑豊かな景観と調和するキャンパス
- 【機能】 王子公園と一体的なまちに開かれたキャンパス
- 【地域貢献】 プロジェクト型学習やリカレント・リスキリング教育を通じて地域貢献



六甲の山々に呼応した
キャンパス計画



地域開放 (イメージ)

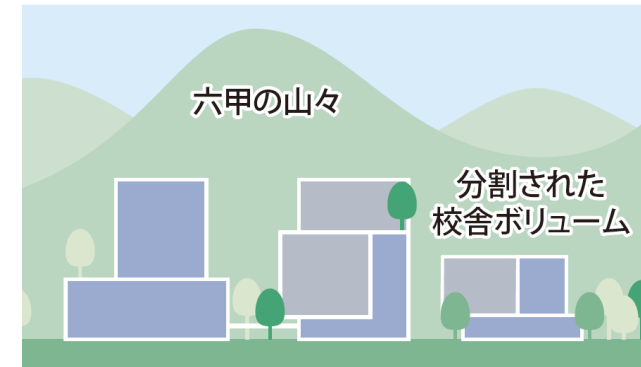


学びの場 (イメージ)

キャンパス 特色① 緑豊かな景観と調和するキャンパス

神戸・六甲の緑豊かな斜面地と調和する配棟計画

- 山並み景観に配慮した分棟による配棟計画
→ 建物ボリュームを抑え、
六甲の山並みの景観を阻害しない



建物配置 (イメージ)

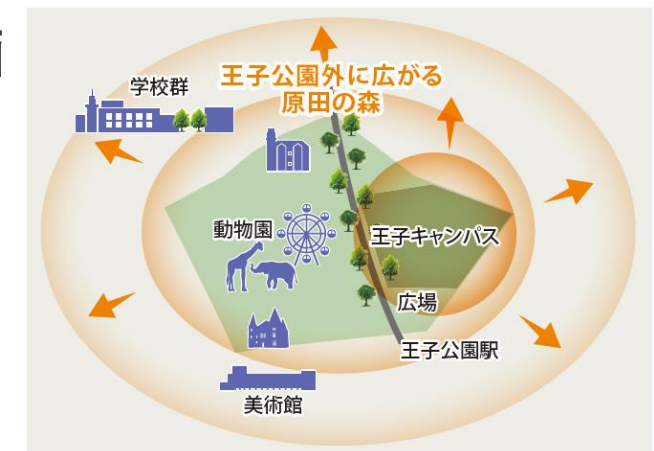


キャンパス全景 (イメージ)

- 周辺に広がる緑を建物に積層させ、周辺の自然環境と調和する色彩を計画
- 擁壁をなくし、緑の斜面で周辺の緑地空間とシームレスに接続

新たな原田の森を創造する拠点形成

- 周辺の豊かな地形と緑と文化を生かし、市民にも開放する施設を計画



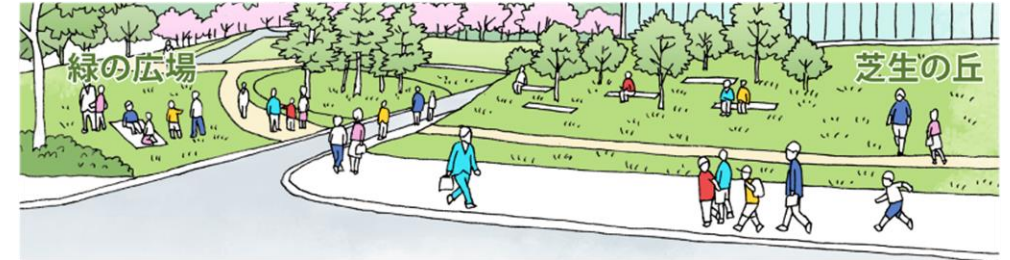
新たな原田の森の創造 (イメージ)

キャンパス 特色② 王子公園と一体的なまちに開かれたキャンパス

あらゆる世代や属性の人々が日々気軽に訪問できる場として、キャンパス施設を開放

キャンパス施設開放の例

- 王子公園や動物園利用者へのレストランやカフェの開放
- オープンラボや図書館の社会人や学生への開放
- ホール、アリーナ、チャペル等の開放



地域開放（イメージ）

王子公園地域一帯の学術・文化拠点としての機能を強化

- 神戸市内の学校間連携
- 王子公園内や周辺との機関・施設等との連携

キャンパス 特色② 王子公園と一体的なまちに開かれたキャンパス

地域資源となる上質な空間を提供

- 眺望を楽しみながら食事を楽しめるレストランを計画



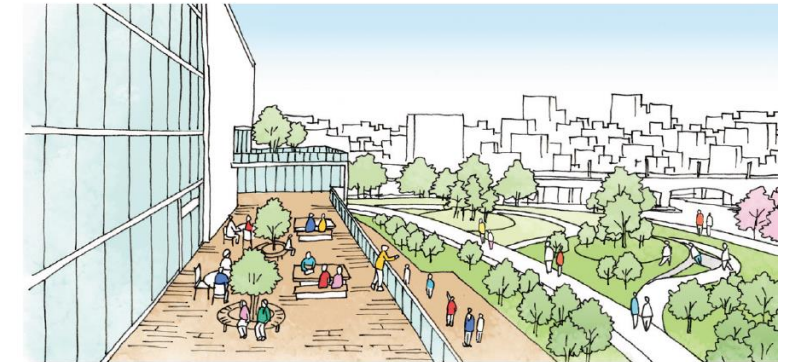
眺望を楽しめるレストラン (イメージ)



図書館 (イメージ)

- 一般の方が利用できる大学図書館「まちライブラリー」を検討

- 周辺の緑がキャンパスのテラスの緑と立体的に連続する計画



テラス (イメージ)

アントレプレナー育成により、王子は創業・成長の基地へ

- 産官学民連携のプロジェクトにより、学生だけではなく、地域社会のアントレプレナーシップも醸成
- 本学が神戸三田キャンパスに2025年度に開設するインキュベーション施設とも連携



神戸三田キャンパスの新インキュベーション施設
(イメージ)

多様なリカレント・リスキリング教育プログラムで、社会のニーズに対応

- 様々な形態でリカレント・リスキリング教育プログラムを提供
- 総合大学の強みを活かし、社会のあらゆる人々が学びの楽しさに目覚めるリカレントラーニングパークを形成